

伸びしろ秘める花産業

Economic Monday

エコノミック・マンデー

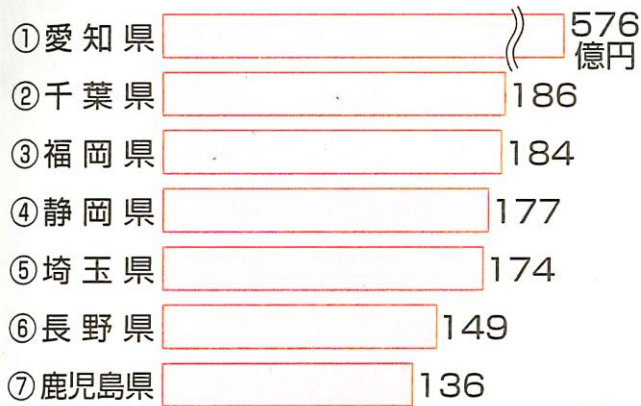
色鮮やかで日持ち 青森県産に評価

● 5月号は「花」

青森県産の花は、県外の市場から「色鮮やかで日持ちが良い」と高評価を得ているものの、国内需要が低迷する中、他の作物に押され、県農業の中では目立たない存在だった。しかし、コメ政策の転換などを背景に、収益を確保できる作物として花の重要性が高まる可能性も。県は既に独自品種育成や、生産地域に合った管理技術の研究などに取り組んでおり、伸びしろを秘めている。(田村祐子)

4月28日に農林水産省が公表した2015年の「生産農業所得統計」によると、青森県の農業産出額は3068億円と全国7位。東北ではトップを誇る。しかし「花き」に限ると、花は人々に安らぎや潤いを与えてくれるが、食品と異なって生活必需品ではないため、消費量は景気動向に大きく左右される。総務省統計局の「家計調査年報」によると切り花の1世帯当たり年間購入額は16年が9317円で、06年の1万7222円から2割弱減った。消費低迷に加え、安価な輸入品の増加により価格も下落し、生産者にとっては苦しい状況だ。県農産園芸課によると、県内の15年の

花の産出額ランキング (2015年)



(農林水産省「生産農業所得統計」より)

作付面積は1233畝で、前年比5%減。02年の2533畝からほぼ半減した。現段階で盛んとはいえない県内の花産業だが、「農業の成長産業化」を掲げる県は14年3月に「県花き振興方策」を策定。菊、トルコギキョウ、デルフィニウムの3品種を重要品目と位置付け、収益力と雇用を生み出す分野の一つとして生産力強化を図っている。県産業技術センター農林総合研究所(黒石市)の花き部はデルフィニウムと菊

県、独自品種育成も



デルフィニウムのハウスで生育状況を確認する農林総合研究所の職員＝4月19日、黒石市

「減反政策の転換や世界的な動向を受けて農業が変化」する中、可能性はできるだけ広く残しておきたい。花も選択肢の一つとして提供できれば」と、コメの先を見据える。花の生産に対し、「面倒で難しい」とのイメージを持っている農家も少なくない。管理負担を軽くし、参入の敷居を下げられれば」と意欲を語った。

平成29年5月1日 デーリー東北 掲載

この画像は当該ページに限ってデーリー東北新聞社が利用を許諾したものです。